

令和7年度常陸太田市原子力防災広域避難訓練

職員評価結果

I 職員評価の概要

令和7年度常陸太田市原子力災害広域避難訓練において、各訓練に参加した職員に対し、アンケート調査を行いました。

併せて、副市長を始めとする市災害対策本部員及び各課長に各訓練について評価をいただきました。

II 職員評価結果

1 住民広報（広報車）

(1) 広報車による情報伝達はいかがでしたか

「概ねできた」とする回答が3名でした。

《自由意見》

○良好な事項

- ・ほぼ全区間の伝達が問題なくできた。
- ・基本的に指定されたルートを走行し、広報することができた。

●改善すべき事項

- ・巡回自体は問題なかったが、防護服に慣れておらず、若干具合が悪くなってしまった。
- ・今回はSDカードでの再生だったが、マスク超しだと数回しゃべるだけでかなりの負担だった。

(2) 広報中の活動として一時集合所へ行っての避難状況の確認は必要だと思いますか

「どちらかというとならないと思う」とする回答が3名でした。

《自由意見》

- ・実際に事故があった際、走行している広報車に「乗せてくれ」という声がかかることが予想される。
- ・広報終盤～終了後では、いわゆる「逃げ遅れ」の確認をすることになると思われる。
- ・広報がひと段落した時点で一時集合所に向かうのであれば、そこで何を確認し、どう判断すべきか明確化しておくのが良いと思う。(例：人が思ったより少ない場合→逃げ遅れ回収をかねて広報再開等) これらが無線等で確認・指示できるのであれば、あえて一時集合所に行かなくてもよいと思う。
- ・防護服着用のため、室内の詳細な状況確認ができなかった。
- ・バスへの誘導を行ったが、駐車場整理の職員で足りていた。
- ・今回は一時集合所で何をするとといった指示がなかったため、到着した後はただ見ていることしかできず、やれることはなかった。
- ・一時集合所の方も忙しく動いていたため、指示を仰げるような状態ではなく、片付けのみの支援となった。

(3) その他、課題や改善策等

ア 防護服による活動への支障

- ・防護服を着ると非常に暑いため、夏場は厳しいと感じた。
- ・防護服着用しながらしゃべり続けるのは厳しいため、音源方式で統一できるとよい。
- ・防護服を着用するとゴーグルが曇り、さらに、足が覆われていることから広報車を運転に支障が生じ危険であると感じた。
- ・防護服のゴーグルが完全に呼気で曇ってしまい、手元も見えなかった。
- ・ゴーグルの曇りで着用したままの運転ができなかった。曇り止めの配布等があるとよい。

イ 広報車の活動指針の検討

- ・市民から声をかけられたとき、広報車で人を運ぶ対応をとるべきかどうかの指針があるとよい。

《部長・課長評価》

●改善を要する事項

- ・エリアメール不具合の原因把握
- ・空間放射線量の住民への周知方法等について確認(※不用意に周知することで混乱が懸念)
- ・防災行政無線の広報文で「原子炉へ注水する機能が喪失しました」との文言があったが、もっとわかりやすい文章の方がよい。

□その他

- ・棚倉町職員が良く対応してくれていたため、今後ともできるだけ多くの避難先市町村の参加を依頼するとよい。
- ・原子力災害対策本部長（内閣総理大臣）から広域避難指示が発出されたが、これは自治体のみへの指示なのか、もし市民も分かるような発表がされると、市からの避難指示前に避難を始めてしまうのではないかと疑問が生じた。

2 一時集合所

(1) 一時集合所設置・運営マニュアルに基づき、一時集合所の設置・運営を円滑に行うことができましたか

項目	回答数
1. 十分にできた	7名
2. 概ねできた	6名
3. あまりできなかった	1名
4. できなかった	0名

《自由意見》

○良好な事項

- ・一時集合所の設置から片付けまで予定通り行うことができた。
- ・他の係員と協力して、素早く設営できたと感じた。
- ・大きな混乱もなく、訓練を終えることができた。
- ・会場図がわかりやすかったので、特に問題なく設営できた。
- ・トラブルも無く無事に送り出すことができた。
- ・時間通りに行えた。
- ・全員で協力して、迅速な設営ができた。運営に関しても円滑に進められていた。
- ・事前にリハーサルを行えたことで、会場レイアウトや準備物に関して把握することができた。
- ・事前のリハーサルに参加したことと、係ごとの配置等を撮影しプリントアウトし持参したことにより設営をスムーズに行うことができた。
- ・一時集合所設置・運営マニュアルに基づき、係員に対し適切に指示することができ、円滑に運営することができた。

●改善すべき事項

- ・設置について、受付後の待機場所が町別になっている席順が他の一時集合所には記載があったが、佐都公民館には記載がなかった。
- ・体育館のどこに何が置いてあるのかをマニュアルに載せると、よりスムーズになると感じた。

(2) 受付・誘導を円滑に行うことができましたか

項目	回答数
1. 十分にできた	5名
2. 概ねできた	8名
3. あまりできなかった	1名
4. できなかった	0名

《自由意見》

○良好な事項

- ・トラブルも無く誘導することができた。

- ・避難者を長時間待たせることなく、受付できた。
- ・想像よりも多く来場し安定ヨウ素剤を配る際に列になったが、目立ったトラブルなどもなく順番に対応できた。
- ・避難者の目線に合わせて順序案内の看板を立てるなどの工夫ができたと感じた。
- ・待機場所が同じ部屋にはない場所だったが、安定ヨウ素剤を配布し受け取った方をスムーズに案内できた。

●改善すべき事項

- ・ICカード受付なのに、一般で受付してしまう方がいた。
- ・受付の前の確認とスリッパ配布や流れを説明する人がいると良い。
- ・ICカード受付と名簿受付の名簿をまとめるのにタブレットでは確認がしづらかった。
- ・さらに多くの人を受け入れる場合、安定ヨウ素剤の説明に一気に人が押し寄せ、受領書を記入する場所や人数が限られているため、順番を待つ場所や質問への対応が不安である。
- ・バスの町名ごとの人数の集計のため、受付の際に幡町か四季の丘の確認をしていたが、受付簿にお住まいの町名と記載されていると四季の丘の方でも幡町と書いてしまっていたので、集計に時間がかかった。
- ・防護服のゴーグルが曇って、前が見えなかった。何度か外して拭いながら作業したが、本当の有事の際はあまり外したくないので、曇り止め等の対策を講ずる必要がある。

(3) 安定ヨウ素剤配布要員業務マニュアルに基づき、安定ヨウ素剤の説明・配布を円滑に行うことができましたか

項目	回答数
1. 十分にできた	5名
2. 概ねできた	7名
3. あまりできなかった	0名
4. できなかった	0名

《自由意見》

○良好な事項

- ・マニュアルに基づき、様式5注意事項説明書を渡し、自動音声の説明を聞いてもらうことができ、流れもスムーズだった。
- ・音声だけではなく説明書があったことで、より分かりやすくなった。音声のスピードや時間もちょうどよかった。
- ・服用の際の注意事項ももれなく伝達できた。
- ・安定ヨウ素剤についての質問を受けた際にも、避難者にとってわかりやすい説明と手際のよい配布ができた。
- ・機初小学校体育館では、各世帯1名で家族欄の記載もなく（本人のみの参加）記載事項も最小限であった事から、特に混乱もなく実施できた。

●改善すべき事項

- ・病院から薬をもらっている人で、ヨウ素アレルギーがあるか否かについて医師に確認できていない人への返答に困った。また、ヨウ素過敏症やヨード造影剤過敏症に過去になったことがある方で、今はどうなのか分からない（たぶん治っている気がする）人

への対応が困った。

(4) 市民からの質問、要望に適切に対応することができましたか

項目	回答数
1. 十分にできた	5名
2. 概ねできた	8名
3. あまりできなかった	1名
4. できなかった	0名

《自由意見》

○良好な事項

- ・質問カードの内容に対して、一時集合所責任者に相談するなどの対応を適切に取ることができた。
- ・市民からの質問に対応できた。
- ・安定ヨウ素剤の副作用について質問があり、マニュアルにもとづいて返答した。
- ・ICカードと普通の受付の違いなど説明対応した。
- ・マニュアルどおりの対応ができた。

●改善すべき事項

- ・本番になった際に、多くの方々からの要求や質問が集中し、対応しきれない部分が懸念される。また、災害対策本部に回答を求める場合、他の一時集合所等からの問合せによって無線が集中した場合、対応しきれぬのか不安がある。
- ・予め質問カードの内容とそれに対する内容が決められていたため対応できたが、実際は困難であると感じた。
- ・質問カードについて、受付で出されると混乱する。

(5) その他、課題や改善策等

ア 受入手順の改善

- ・バス乗車中に、参加住民の方で、一時集合所まで自家用車で来た方から、駐車場への誘導はあったが、駐車場に着いてからの案内はなく、どのタイミングで中に行ったらよいか分からなかった、案内が欲しかったとのご意見があった。
- ・避難者の受付は、ICカード受付と避難者個票受付の2種類があったが、どちらで受付なのか確認するのに少し手間取ってしまった。
- ・全員が受付を通過した後も、受付が2通りに分かれていたために、全員受付を済ませたのか、確認するために少し時間がかかってしまったことが、課題であった。
- ・機初小学校の一時集合所運営はかなり時間に余裕をもって行うことができたと感じたので、今後も同様のマニュアルをもとに実施するべきである。
- ・訓練であったため順調に実施できたが、本当の災害時に大勢の方に対応するにあたり一時に来所されては混乱を生じさせると感じた。
- ・受領票の記載が、世帯毎であり多人数いる世帯は記載者1名が家族員の事を全部把握し

ているとは限らず、混乱するもとなると感じた。

- ・係員全員が何かしらの役目があり、突発事項に対応できる者がいないと感じた。
- ・実施計画 P29 では（3）訓練スケジュール【安定ヨウ素剤説明場所】では、「安定ヨウ素剤説明場所に避難者が 10 名以上集まったタイミングで…」とあるが、リハーサルであったように、パソコンからの自動音声の説明はリピートモードにして、受付が済んだ方から様式 5 注意事項説明書を渡し、説明を聞き終わった順に移動させた。
- ・町名欄に四季の丘と記入するところに幡町と書いてしまう方がおり、人数集計に時間がかかってしまった。例えば、名簿記入欄に団地かどうか選択する部分を設けるか、町名の中で四季の丘を含めて大きく幡町としてしまうか等することで少しでも混乱は避けられるのではないかと感じた。

イ 一時集合所の機能の確認

- ・佐都公民館は、駐車スペースが少ないことから、有事の際の集合人数によっては、駐車スペースが不足する恐れがある。
- ・佐都公民館の駐車スペースに、植木鉢と隔てられたエリアがあり、そちらへの駐車は不可と判断していたところ、イベント時は、植木鉢の間を抜け、奥まで駐車させているとのこと。会場によって駐車可能エリアが示されていれば、車両誘導時の動線の検討がスムーズにできる。
- ・体育館であれば全体が見渡せ、動線が確認できることから、来所者の不安を軽減できると感じたが、狭い公民館では見渡せるような場所ばかりではないので、混乱を生じさせるものと考えた。
- ・安定ヨウ素剤の説明でパソコンを使用して自動音声での説明であったため、電源を取る関係で、電源コードを住民が跨ぐことがないように、実施計画 P. 32 の会場配置より変更して、パソコンを壁側に設置、椅子も壁側を向くように配置した。

ウ 資機材の充実

- ・避難者がバスで一時集合所から避難中継所への移動途上において市災害対策本部に連絡等をするために、正副の連絡員を指名し、携帯番号を教えてもらい連絡先として様式に記入したが、携帯電話を持っていない避難者もいた。実際に事故が発生し、避難したときに携帯電話を誰も持っていないとなった場合の為、あらかじめ避難者の連絡員用として無線機などの連絡手段を確保しておいた方が良いのではないかと思った。
- ・ゴーグルが曇り、視界がぼんやりとしていた。当日は雨もありゴーグルの外側にも水滴がついたため、余計に視野不良であった。ゴーグルの曇り止め対策が必要だと感じた。
- ・機初小学校体育館では安定ヨウ素剤の説明で、パソコン用のスピーカーを準備していたことから、音量が確保できた。
- ・ビニール紐と椅子で順路を確保したが、ビニール紐が白色で見えにくいため、色付きの方が良いと思われる。
- ・機初小学校体育館だと時計が遠いので、名簿受付スペースに時計があると良い。

エ 訓練準備・訓練管理

- ・説明会だけでは動きがわかりづらかったので、リハーサルがあつて良かったと感じた。一方で、リハーサルを実施できなかった職員は苦慮していた。
- ・一時集合所ではなく避難所で、避難者より「マスクをしていない職員がいる」とご指摘が

あった。今回の訓練では高齢者が多く、コロナやインフルエンザ等も流行し始めていたことから、訓練の際に職員が感染源にならないようマスクの着用を求めるべきであった。

- ・説明会に出席したのに、ぼんやりとした全体像しか分からなかった。全体の流れの後に、各担当の業務について明確に説明があるとよいと思った。

オ 平素からの普及教育（住民・関係機関）

- ・参加されたのはご高齢の方が多かったため、じょうづるさんナビの通知に対する操作方法について何度か質問を受けた。わかる範囲で説明したが、理解することに苦慮していた。
- ・今回は訓練ということもあったかと思うが、バスの運転手に危機意識が無かったように見えた。避難者が全て乗り込んだにも関わらず、出発するまでに5分以上かかっていた。実際に事故が発生した時のバスの手配等はどうのようにするのかは把握していないが、バス会社（運転手）の教育も必要ではないかと思われる。

カ 平素からの普及教育（市職員）

- ・原子力災害が起きた時にどのような動きをするかあまりわかっていなかったので、訓練に参加できてよかった。
- ・原子力災害は通常の災害とは違い、情報の不確実性が極めて高い情報下で、限られた時間での状況判断や広域連携（原子力関係施設・避難場所・病院など）が重要になると考える。そのようなスピーディーな判断を行うためには専門的な知識を備えている人材の配置や確実な情報網の構築が必要不可欠になる。

キ その他

- ・訓練会場の配置上、やむを得ないが、安定ヨウ素剤を貰ってから待合室に向かう人と新たに受付をする人が混雑したことから、配付職員が待合室まで案内した。
- ・車で来場されたお客様でタイヤがパンクした方がいた。
- ・安定ヨウ素剤の服用指示がトランシーバーのみなので、責任者が対応に追われていた場合に服用のタイミングがずれるのではないかと感じた。

《部長・課長評価》

○良好な事項

- ・今回の訓練実施に当たり、職員研修も行ったことから、以前より職員の対応（誘導等）は改善されてきていると感じた。今後も繰り返し訓練や研修を重ね、対応力の向上に努めていくべきである。

□その他

- ・里美小中学校に向かう途中で佐都公民館を横目で見したが、バスが入るのに苦労していた様子であった。そこを利用する市民の数が分からないため、駐車スペースがいっぱいになり、大型のバスが着けられないということも想定されることから、バスの乗車場所は、各地区1～2か所、常陸太田地区だったら新総合体育館とパルティあたりに設定し、一時集合所に集まった市民を公用車や自衛隊などで迎えに行くというほうが、職員の配置や敷地設備、バスの確保・配車を考えると効果的・効率的と考える。

3 避難退域時検査場所場所（安定ヨウ素剤配布）

（１）安定ヨウ素剤配布要員マニュアルに基づき、市民に安定ヨウ素剤の緊急配布を行うことができましたか

「十分にできた」との回答が3名、「概ねできたとの回答が1名でした。

《自由意見》

○良好な事項

- ・安定ヨウ素剤配布要員マニュアルに基づき、自家用車での避難者に対し、適切に安定ヨウ素剤に関する説明、配布を行うことができた

●改善すべき事項

- ・緊急配布はスムーズにできたが、雨天であったため、車内配布のため窓を開けて渡す際に、雨が車内に入ることがあった。案内文書も濡れてしまったので、天候による対応も今後検討を要すると感じた。

（２）避難退域時検査の進行状況について、市災害対策本部に対し報告ができましたか

「十分にできた」との回答が3名でした。

《自由意見》

●改善すべき事項

- ・避難者に、安定ヨウ素剤（ラムネ）を受けた後の「駐車場所」の案内は事前にしてあったらしいが、当日、「どこに停めればよいか」との質問があった。説明会資料に添付がなかったので、今回は、避難者に伝えてあったとしても、担当者には資料を配布してほしい。

（３）その他、課題や改善策等

ア 雨天時の対応

- ・訓練当日は雨天であったため、訓練参加者はレインコートを着用したが、簡易的なものだったため破損が多くみられた。また、会場には雨を避けるためのテントが設置されておらず、資料等が濡れるなど、管理に支障をきたした。

イ その他

- ・今回の訓練では、外国人住民の参加はなかったが、原子力災害時には地域内の外国人住民への対応も想定する必要がある。現状では、安定ヨウ素剤の配布や服用方法等に関する資料が日本語のみで作成されており、外国人への説明体制や多言語支援体制は十分に整っていない。
- ・一時集合所設置・運営マニュアルに写真（昨年現場）を追加した方が理解しやすいと思った。
- ・運営について他の関係機関（県・日本原子力発電など）と連携（情報共有など）が取れていなかった。運営訓練開始前の全体のミーティングも行われなかった。

《部長・課長評価》

●改善を要する事項

- ・スクリーニングの時間がかかり、本番でさらに多くの方や乗用車が来た時に円滑に回るのか心配になった。
- ・各職員が段取り通りに実施していたが、個々のスクリーニングに時間を要しており、実際に発災した際には自家用車が詰め掛けるおそれがあり、スペース的にも要員のにも不足し、大渋滞・大混乱が予想される。
- ・バスの検査が大変時間がかかった。確かにじっくりと検査をしていたが、本番である状況では道路まで検査待ちの列が並び、大渋滞となる懸念がある。

□その他

- ・スクリーニングは県の役割とのことだったが、市議会議員なども見学していたため、説明などあればよい。

4 避難中継所・避難所

(1) 【避難中継所】避難者情報の収集、避難所の指定を円滑に行うことができましたか

「十分にできた」との回答が2名、「概ねできた」との回答が1名でした。

《自由意見》

○良好な事項

- ・2人1組の体制だったので、余裕をもって対応できた。
- ・バスの避難者が来た場合は多少の混雑が起きたが、おおむね問題もなく円滑にできた。
- ・目立った遅延や混乱もなく進行できた。
- ・トラブル等も無くスムーズに対応することができた。

(2) 【避難中継所】通過人数を、町対策本部に連絡することができましたか

項目	回答数
1. 十分にできた	2名
2. 概ねできた	1名
3. あまりできなかった	0名
4. できなかった	1名

《自由意見》

○良好な事項

- ・あらかじめリーダーから指示があったため、円滑に人数集計等ができた。
- ・目立った遅延や混乱もなく進行できた。

(3) 【避難所】避難者個票による受付を円滑に行うことができましたか

「概ねできた」とする回答が6名でした。

《自由意見》

○良好な事項

- ・目立った遅延や混乱もなく進行できた。
- ・バスによる避難者を受け入れる際に代表者が自主的に避難者を並ばせてくれたため、スムーズに人数を確認することができた。
- ・避難者から提出された自筆の避難者個票を集約表に転記する際、誤字等が生じないように確認に時間がかかったが、概ね円滑に行うことができた。

●改善すべき事項

- ・自家用車の避難者はスムーズにできたが、バスの避難者において多少の混乱は起きた。
- ・ICカードの有無を確認するときに、ICカードが何なのか分からなかった。担当者も、避難者もあまり把握していなかった。「ICカードがありますか」と確認すると、マイナ

ンバーカードと勘違いする方が多かった。ICカードがこういうものという表示などがあるといいと思った。

(4) 【避難所】 収容人数を取りまとめ、町対策本部に連絡することができましたか

「十分にできた」とする回答が3名、「概ねできた」とする回答が2名でした。

《自由意見》

○良好な事項

- ・目立った遅延や混乱もなく進行できた。
- ・避難者個票・ICカードで受け付けた人数と集約表の人数を突き合わせ、誤りが無いことを確認して報告することができた。
- ・報告時点の収容人数が少なかったこともあり、人数を誤ることなく報告できた。

●改善すべき事項

- ・今回の訓練では十分にできたが、多人数の場合は十分にできるかは不安が残る。

(5) その他、課題や改善策等

ア 様式の改善

- ・避難者集約表について、記入した人数の合計が分かりづらかったことから、人数の累計がわかるよう通し番号があるとよい。

イ 訓練準備・訓練管理

- ・体育館の床に敷かれていたマットの端を養生テープ等で止めていなかったため、爪先をひっかけて転倒しそうな場面を見かけた。
- ・多くの避難者役の方々から、事前・当日の周知・説明が不十分であることが原因と思われる質問や、訓練の趣旨について理解不十分であることが原因と思われる苦情があった。
- ・一度の訓練に様々な内容を盛り込みすぎではないか。自身を含め、職員の多くが、訓練の趣旨や内容の理解が不十分なまま参加していた印象であった。
- ・多くの市内外の方々が参加する訓練を有意義なものとするため、もう少し時間をかけて丁寧に行うべきと思った。
- ・アンケートの質問事項や枚数が多すぎるとの苦情を多く受け、確認したところ、そのような指摘を受けてもやむを得ないと思われる内容であった。
- ・訓練を行う直前に説明（ミーティング）を受けても理解できない。支援業者の説明方法にも改善が必要である。

《部長・課長評価》

○良好な事項

- ・受け入れ先自治体の職員とコミュニケーションをとりながら対応できていた。
- ・棚倉町、常陸太田市の職員が連携して、スムーズな対応を行っていた。受入側の職員も避難者の対応や設営など非常に協力的であった。
- ・受入先となる自治体からの職員参加もあり、テントや段ボールベッドの設置など、限られた時間のなかで避難住民とともに活動できたことは、参加した職員にとっても貴重な体験であ

ったと思われる。

- ・里美小中学校では、訓練参加者の流れが明確に表示されており、職員の案内もスムーズだったと思う。
- ・受付等については、声掛けができていたと思う。
- ・配置職員は声出しもしっかりしており、積極的に取り組んでいた。
- ・避難所での訓練において中心となる職員は受付手順等について把握しており、市民からの質問に対してスムーズに対応していた。
- ・案内、受付など円滑な対応ができていたと思われる。
- ・ICカードを持っていない方の避難所受付が迅速に行えていた。
- ・バスによる避難受入時に受付が集中してしまう事態は生じていたようだが、比較的順調に受入対応ができていた。
- ・事前の説明会等により、支援職員は各役割分担箇所において、必要な対応を丁寧に行っていた。

●改善を要する事項

ア 誘導體制

- ・避難中継所までの誘導員が1人では足りないと思う。本番では各方面から一斉に集まったら対応できない等混乱が予想されるので、複数人（説明・誘導）による対応が必要と感じた。
- ・今回の訓練において、3か所の受入先を同じ体育館で実施したため、入口付近にて誘導するアシスタント役を複数人配置すれば、もっと受入訓練がスムーズに進められたと思われる。
- ・バスの中での待機時間が長かった。対応者を増員してほしいとの要望があった。
- ・スムーズであったと思うが、入口対応が1人で整理と誘導を行っていたので、増員した方がよいと感じた。
- ・バス避難者の待ち時間が比較的長いように感じたので、もう少し詳細な説明があるとどうして待たされているのかがわかり良かったかもしれない。
- ・実際に災害が発生した場合は、避難中継所が混雑すると考えられるので、受付や案内の人数を増員したほうがよい。

イ 避難者個票の記入・集計

- ・氏名等を記入する際に、机と椅子が空いているのに、記入用紙が足りない状況になり、結果待ち時間が長くなった。
- ・避難者個票記入の際に枚数を増やさないようにするためと思われるが、避難者個票への記載待ちの方が後ろに並んで待っているのが見受けられたので、実際に多くの方が一気に押し寄せた場合など、課題があるものと思われる。
- ・スムーズに受付できるように、記載する項目を削減した方がよい。
- ・職員が避難者情報を避難者個票から集約表に転記するのが、大変そうだった。
- ・体育館内での受付の時間がかかっていた。人数が揃わず、人数確認に時間を要していた。
- ・集約表の一番左に一連番号を付した方がよい。
- ・避難所設営の受付時の氏名を記入する用紙や記載例とも、大きな文字表記がよい。体育館であることや、高齢者が眼鏡なしでも記載ができるような様式にした方がよい。厚紙

用紙にし、避難者リストとしての活用などもできると思う。

ウ 資機材

- ・避難者に記入してもらう際に老眼鏡がないため、記入に苦労されている様子であった。
- ・靴の置き場所や下足袋の要望があった。
- ・テント内部に敷くシルバーのシートがないテントがあったので、事前に資機材の確認が必要と思う。
- ・バスで到着した避難者への案内に声が届かずに苦慮していた。拡声器があってもよかった。また、誘導の旗などがあってもいいと感じた。

□その他

- ・避難所において、避難者に対して原子力災害の状況(放射能の状況等)をお知らせする訓練を加えるべきと感じた。
- ・自家用車で避難した方は、バスで避難した方たちが避難所まで来る間、何もしないで退屈そうにしている様子から、次回は動画を流すとか、今回のように資機材の話をするとか、退屈しないような工夫が必要であると感じた。
- ・体制は万全であったが、一時集合所からバスで移動してきた集団の受入れに必要以上の時間を要していたことから、実際に発災した際には混乱が生じるおそれがある。
- ・避難所における実際の受付時での避難者個票の記入は混雑すると思う。マイナンバーカードを活用した受付方法など、デジタル化の推進を検討すべきである。
- ・県が実証を行っていた IC カードのデータ提供を求めるべきと思う。
- ・スムーズな受付として、IC カード受付を行っていたが、県が発行する IC カードとのことなので、避難の際には IC カードを持っていくことへの意識付けが必要と思われた。
- ・実際の避難時には、避難者の手荷物が多くなることが想定されるので、避難所に十分なスペースの確保が必要となると思う。また、役員が運営会議を行うスペース確保も必要である。

5 高齢者福祉施設

《部長・課長評価》

○良好な事項

- ・えみの里の受入は健康状態やアレルギー等、詳細な引継ぎができており、問題はなかった。
- ・訓練に参加した施設職員は、過去の訓練の事例などを参考に事前学習をしており、原子力災害に備えた自覚を深めることができたと思う。
- ・福祉の杜サングリーンピア太田とえみの里職員との、要支援者の引き継ぎ書のやり取りがあり、大変参考になった。
- ・配布されていた資料に従い、スムーズに対応できていた。
- ・防災対策課のマニュアルとおりにすばやく職員が対応できた。

□その他

- ・入所施設の訓練としては、参加者が少ない(職員2名・入所者2名)と感じた。
- ・今回は歩ける方2名のみであったが、災害時に全入居者が避難ということを想定し、福祉車両の確保状況にもよるが、重体者から避難させるのか、健常な方から避難させるのかなど、避難の順番や随行する職員の体制などについて、県がやるのか施設がやるのかはわからない

が、マニュアルを作成しておけばいいのではと感じた。

- ・訓練の重要性や目的が職員間で十分に共有され、この訓練が「形式的なもの」とならないよう、施設側との訓練後の振り返りが必要であると感じた。
- ・要支援者の方をえみの里まで運ぶ方が原電職員であったため、できればサングリーンピア太田の職員がえみの里まで運んだ方が良かった。
- ・訓練が原子力災害広域避難訓練ということで、公用車のエアコンを使用してしまうと車内で被ばくする恐れがあるため、使用を控えるなど職員の訓練が必要ではないかと思った。
- ・常陸太田市内の福祉車両の数と移動手段、運転手や支援員等を把握し、支援の仕組みづくりが必要である。
- ・原子力災害・地震・豪雨災害と避難所の対応が違うと思うのでマニュアルを作成した方が良かった。

6 避難先市町災害対策本部

(1) 常陸太田市との連絡調整・要請について、マニュアルに基づき円滑に行うことができましたか。

「十分にできた」とする回答が1名、「概ねできた」とする回答が2名でした。

《自由意見》

●改善すべき事項

- ・時間については概ねスケジュール通りであったが、誤ってFAX番号に連絡していたため滞りがあった。確認のため、常陸太田市役所へ電話をかけるも当直へつながり、訓練担当へつなぐことができないと言われ、進行に困惑した場面があった。

(2) その他、課題や改善策等

- ・連絡体制について不安があったため、事前の電話連絡・FAX送信についての確認やテストを行う、トラブル時には個別の携帯番号を教えていただくなどがあればよかった。
- ・常陸太田市からのFAX着信確認電話を1階に設置された電話で受けた後に、2階のFAXを確認する予定だったが、常陸太田市からの電話連絡が無く、こちらから確認の電話を行った。2階のFAXに気づかないことがあるため、緊急時においては、受信用のFAX機を1階に設置された防災FAXに指定した方が、万が一電話が無くともFAXの受信が確認できるので緊急時におけるFAX機の指定を検討する。

7 常陸太田市災害対策本部

(1) 課題や改善策等

ア 資機材の充実

- ・ホワイトボードは2台（情報グループ、調整グループ）あった方が良かった。
- ・災害対策本部において、各グループごとにホワイトボードを配置したほうがよい。
- ・ホワイトボード用の「黒板けし」と「太字で書ける」ペンを準備しておく必要がある。
- ・今回の訓練では、情報Gと調整Gとホワイトボードを共有していて、書ききれなくなることがあったため、次回以降は2つ以上用意した方が良かったと思う。

- ・ホワイトボードを2つ準備すると、観覧スペースから災害対策本部内が見えなくなる恐れがあるため、レイアウトを検討する必要がある。
- ・電話の呼び出し音が大きいので音の調整が必要である。

イ その他

- ・ホワイトボードに記載するはずのFAXや連絡文に未記載があった。
- ・IP無線の呼び出し方法などを明確にする。

《部長・課長評価》

○良好な事項

- ・避難中継所、避難所とのやりとりは、円滑に行われていた。
- ・一時集合所や避難退域時検査場所、避難所とも連携がよく図られ連絡報告も過不足なくできていた。
- ・避難所からの要望事項は医療関係など多岐にわたり、訓練では即時対応されていてとても良かった。
- ・混乱なく、適切に対応できていた。
- ・情報を即時に伝達する方法としてホワイトボードを活用したのは良かった。
- ・災害対策本部事務局の対応状況は、スムーズな対応だった。

●改善を要する事項

ア 配置

- ・現場等との情報交換を実施し騒然となる情報グループと避難調整グループには別室を設けるべきで、それらグループの代表者が災害対策本部への報告及びホワイトボードへの書き込みを行う方が混乱を回避できる。
- ・災害対策本部会議中の電話の着信音が大きく、気になった。

イ 資機材

- ・日本原電がモニターを活用して事故の状況報告をしたが、1台のモニターにより説明したため、そのモニターが見えない本部員からは、説明内容は全く分からなかったと思われる。説明方法に工夫が必要だと感じた。
- ・災害対策本部会議のTV会議モニター画面において、市長の画面が暗く、広角で小さかった。内閣官房長官の画面は、明るく、大きく鮮明であった。

□その他

ア 避難者要望への対応

- ・避難所要望カードは、あらかじめ用意されていたものへの回答と調整だったので、スムーズに進んでいたが、想定されそうな要望はまとめておくとよいと思う。また、内容によっては、県の判断になるとのことなので、こちらも想定できることは、調整しておくべきだと思った。
- ・実際の避難全般の要望等への対応は困難を極めるものと改めて考えさせられた。

イ 平素からの体制の確認

- ・協力を求める各事業者・団体(医師会・薬剤師会等)の災害時の行動計画(対応が可能なか)が策定されているか確認をしたうえで、連絡体制を整備すべきである。
- ・食料の受け取りなど外出する場合、自主防災会の協力をもらうときの防護措置の周知や

資機材の準備について確認する。

- ・避難者からの要望への対応のため、事前に避難場所周辺の医療機関はじめ関係機関などとの協議が必要である。

ウ 災害対策本部会議の設置・体制移行の手順

- ・災害警戒本部設置から災害対策本部設置までの時間が30分と短く実際の時には遅れることも考慮しなければならないと感じた。
- ・災害対策本部に看護師資格保有者を配置してはどうか。災害は予測不可能なため、専門的意見や判断が必要な場合もあるため。

エ 訓練内容

- ・災害対策本部会議時に視察に来ていた近隣自治体のほか、県、自衛隊、警察の方などに災害対策本部会議の運営等に対する意見を求めてはどうか。
- ・災害対策本部運営訓練については、シナリオがあったが、実際の災害の時に自分の役割を把握し迅速に対応できるのかが心配である。
- ・現場からの情報収集はもちろん大事ではあるが、同時に、災害対策本部会議各回の内容の情報提供や現場同士（避難所なども含む）の情報交換など、災害現場も含め全職員へ伝達する手段（掲示板やLINEなど）の構築について、実際の災害を想定した訓練を実施することが必要だと感じた。
- ・災害対策本部の役割は、災害現状の把握・災害対応策の決定・情報共有と考えているが、当市においては情報共有（提供）の部分が弱いと思われる。訓練においては、災害対策本部に参加した職員だけは情報共有がされており、幹部職員のためだけの訓練となっている。正確な情報共有を図るため、担当課において、開催回ごとに情報をまとめて次の災害対策本部会議開催までにレジュメを配布するなど、改善の余地があると考えた。
- ・災害対策本部（大会議室）が狭かったことから、感染症対策を踏まえ、リモートを活用した災害対策本部の分散運営を検討しても良いと思った。

8 自主防災会による避難所設置運営

《部長・課長評価》

○良好な事項

- ・職員の対応は概ね良好である。
- ・避難者の受付、避難所の設営訓練補助（テントやダンボールベッドの設置）等、職員は適切に対応していた。
- ・避難所運営訓練について、市民と連携し対応ができていた。
- ・若手の補助職員の動きが積極的で、責任感を持って訓練に臨んでいた。
- ・以前の避難訓練時にスムーズにできなかったテントの片づけについて、職員が片付け方を把握しており、時間をかけずに行うことができた。
- ・市民の方も積極的に避難所設営に関わっていてよかった。
- ・市に頼ることなく自分たちで行うという市民の意識が感じられた。
- ・積極的に参加して協力し合っていたと感じた。
- ・役員に割り当てられた参加者は責任をもって役割を果たしているように見受けられた。ほか

の参加者においても、積極的な方が多かったと思う。

- ・市民は真摯に訓練に参加していたと思う。今後も町会等において訓練を継続的に行えば、いざという時はもちろん、地域の和（結い）にも繋がるのではと思う。
- ・パーテーションや簡易ベッドの設置方法を理解できていた。
- ・パーテーションや簡易ベッドの組立を経験することができて、実際に発災した際に役立つと思う。

●改善を要する事項

ア 訓練の進行

- ・テント設置等の際の説明が参加者一人ひとりに行き届いておらず、自分の役割を分からないとの意見があった。
- ・高齢の参加者の方から、マイクの声が響いていて、何をしたら良いか我々は分らなかったとの意見があった。

イ 訓練内容

- ・テント設置時等における積極的な対応は良かったが、職員のみで設置しまうのではなく、参加者の設置体験を促すことが重要ではないかと感じた。
- ・本部長や班長などの役割分担を指示されたが、困難であると感じた。
- ・パーテーションや簡易ベッドの組立は、高齢者には負担のかかる作業だと思う。
- ・避難所での役員の役目、動き方など課題があると思われた。
- ・市民は訓練支援受託業者の説明や指示をよく聞いて対応をしていたと思うが、段ボールベッドの組み立てに手間取っていたように見えた。

ウ 資機材・準備

- ・訓練参加市民から、避難所までの移動については説明されていたが、避難所での設営訓練についての説明を受けてなかったため、混乱したとの意見があった。
- ・床に敷いたシートのつなぎ目に躓きそうになった人を何人も見かけた。特に高齢者の参加が多かったので、大変でも養生テープを貼るなどの対応が必要と感じた。

□その他

- ・簡易ベッドは、段ボールの方が平らで寝やすい感じがした。
- ・テントの片付けを一部の地区では職員が行っていたが、最後まで参加者と一緒に行えば良かったと感じた。
- ・業者任せの感じがする。行政がもう少しリードをした方が良いのではないかと思った。
- ・「実際に事故が起きたとき、こんな人数の業者が来てくれるのか。業者に仕切らせるのはよくない」という意見があった。